

# 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

(令和3年度)

## 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ報告書

広島県地域保健対策協議会 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

WG長 伊藤 公訓

胃がん・肝細胞がんの予防のためのサーベイランス体制の構築を検討するため、令和2年度に県内3市町で実施した「肝炎ウイルス検査体制をベースにヘリコバクター・ピロリ菌検査を組み合わせた住民対象検査（モデル事業）」について、結果解析と総括を行った。

### 1) 肝炎ウイルス検査の住民対象検査（モデル事業）の分析結果について

田中委員より下記のとおり報告があった。

肝炎ウイルス検査は、受検者（3市町合計1,649人）における肝炎ウイルス陽性者数（陽性率）が、安芸太田町がB型3人（0.5%）・C型3人（0.5%）、呉市がB型5人（0.9%）・C型0人（0%）、尾道市がB型9人（2.0%）・C型0人（0%）であった。コロナ禍の影響もあり住民の参加率が2割未満にとどまったため、有病率の絶対精度0.2%を担保できなかったことを考慮し、肝炎ウイルス感染状況のElimination（排除）到達度について血清疫学的に評価した結果、B型肝炎については安芸太田町が准到達地域、呉市と尾道市は未到達地域と判定し、C型肝炎については3市町とも准到達地域と判定した。呉市、尾道市ではC型肝炎陽性者が0人であったが、陽性者が受検しないという選択バイアスの影響と、同地区では感染に気づいていない陽性者の掘り起こしが進んでいる可能性が示唆された。

知識啓発に関するアンケート調査については、多変量解析の結果から、男性、若年-中年層、健康に関心がない人へのアプローチが課題であることが明らかとなった。その他、陽性者の専門医療機関受診促進については、陽性者に対し個別にフォローアップシステムの案内や専門医療機関の一覧等資料を配布したことにより、同システムへの新規登録に繋がった。

### 2) ヘリコバクター・ピロリ抗体検査の住民対象検査（モデル事業）の分析結果について

伊藤WG長より下記のように報告があった。

ヘリコバクター・ピロリ菌抗体検査は、肝炎ウイルス無料検査の受検者のうち、希望者全員（1,592名）に実施した。ピロリ菌抗体陽性者数（陽性率）は、安芸太田町が299人（49.4%）、呉市が196人（35.6%）、尾道市が139人（32.3%）であった。3市町とも高齢者で高率であった。また、全体では中山間地が高率であったが、20~40代に限れば、3市町とも差がなかった。ヘリコバクター・ピロリ菌は経口感染のため、中山間地で高率であったことは、高齢者の幼少期時の上下水道の普及率に関連しているのではないかと考察した。

今回の調査により、陽性者数634人のうち、受診勧奨の結果、除菌治療を実施した方が180人であり、抗体陽性者の約3割を除菌まで繋げることができた。

今回の住民対象検査の有用性として、若年者（50歳未満）の陽性者数426人に対して得られた効果を計算したところ、30名に除菌治療を行なったことにより2.5人の胃がん発症を予防できたことになる。なお、1人の胃がんを予防するための本事業モデルの参加必要数（NNT）は170と算出された。検診対象年齢である50歳以上においては、従来の対策型胃がん検診における胃がん発見率が、広島県全体では0.14%に対し、今回の住民対象検査は1.03%であったことから、約7倍程度の胃がん発見率となっている。

### 3) 総括と今後の展開について

住民基本台帳から無作為抽出した住民を対象とし、スクリーニング検査として、肝炎ウイルス検査及びヘリコバクター・ピロリ抗体検査を実施し、要精密検査受診者の早期発見と専門医療機関への受診に繋ぐことができたことは、スクリーニング体制の構築

に向けて、一定の成果があった。また、同時に実施したアンケート調査等により、住民へのがん予防に対する啓発も可能であった。一方、ピロリ菌に関しては、若年層での感染の早期発見、早期除菌が望まれるため、当初は学校健診に導入する方法を目指したが、学校保健安全法に規定されている定期健康診断に追加することは、費用負担や学校医等の理解が必要となるなどの課題も明らかとなった。より効果の高いスクリーニング体制を構築するためには、対象者の適切な選定や検査実施方法等について、更なる検討が必要であると考えられた。

今後の展開として、住民基本台帳をベースとした検査対象者の選定及びスクリーニング検査を実施した今回のモデル事業は、潜在的な患者の掘り起こしと早期受診に繋げることにより、がん予防の一次ス

クリーニング手法として有用であることが示唆された。このため、次期広島県がん対策推進計画における施策では、今回の調査結果を踏まえた新たながん予防のための一次スクリーニング検査の導入や効果的な住民への啓発について、取り組んでいくことが期待される。

委員からは、今回の住民対象検査のようなヘリコバクター・ピロリ菌抗体検査を、特定健診に組み込めれば、受検率も上がり、がん予防にも期待が出来るため、行政には検討いただきたいとの意見もあった。

本WGは今年度で終了となるため、住民対象検査（モデル事業）の結果、スクリーニング検査が有効な手法であると考えられることから、今後の普及と展開に向けて、行政において検討していくこととされた。

広島県地域保健対策協議会 胃がん・肝細胞がん予防サーベイランス体制検討ワーキンググループ

WG長	伊藤 公訓	広島大学病院総合内科・総合診療科
委員	相方 浩	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学
	石村 泰宏	広島県健康福祉局健康づくり推進課
	吉川 正哉	広島県医師会
	田中 純子	広島大学大学院医系科学研究科疫学・疾病制御学
	濱井千年世	広島市健康福祉局保健部健康推進課
	藤川 光一	広島県医師会
	光野 雄三	みつの内科消化器科クリニック
	三宅 規之	広島県医師会
	山口 まみ	広島県健康福祉局薬務課
	横山 行男	横山内科医院
	吉原 正治	広島大学保健管理センター
	渡辺 健一	広島県地域保健医療推進機構総合健診センター